

メルヘン・木の世界へのいざない

社団法人 北海道林産技術普及協会

「おじいちゃん、こっちこっち、！」、昨年の夏休みも終えた8月下旬のある午後のことである。一台のワゴン車が情報館前の駐車場に止まるや否や、小学校の4～5年生くらいの女の子が、妹と思われる子と連れ立って車から飛び出し、叫び声をあげながらログハウス目掛けて走って行った。そこは、伊藤英二の大型遊具が展示され、子供たちにとっては実際に手や体に触れて遊ぶことのできるメルヘンの世界となっていたのである。

昨年7月25日から8月29日にかけて、「木のくらふと&おもちゃ展」を開催した。同時に留辺蘂町の木のおもちゃ作家伊藤英二氏の作品を集めた「伊藤英二の遊びの世界」と、初めての試みとして、全道の小中学生を対象とした「子ども木工工作、レリーフコンクール」も行った。このイベントは多くの関係団体、企業などの協賛を得て実施され、期間中約3万人の人出で賑わうなど、大きな成果をあげることができた。今年もまた、世界の木のおもちゃ、クラフト類の展示や木工作品コンクールなどからなる「木のグランドフェア」を行う時が目前に迫ってきた。このイベントに対する関心を深め、より多くの人たちの来場を願って、昨年の概要を紹介する。

はじめに

北海道立林産試験場と北海道林産技術普及協会は、「木と暮らしの情報館」を主会場とし、隣のログハウス「木路歩来」や周辺の芝生を使って、毎年長期間のイベントを行っています。

当初は、木製屋外施設展、木製窓展など木材業者や建築関係者など専門家を対象としたイベントを行ってきましたが、一昨年からは対象を一般の人たちに切り替え、「日本の木のおもちゃ・遊具展」と称して日本全国の優れた木のおもちゃや遊具類の展示と、実際に遊ぶことのできる伊藤英二氏の大型遊具類の展示を行いました。昨年はこれらをさらに発展させ、北海道の小中学生を対象にした「子ども木工工作・レリーフコンクール」を加えました。

このように、子供からお年寄りまで幅広い人々を対象にしたイベントを行うことにした目的は、できるだけ多くの人たちに

1) 北海道をはじめ、日本全国の優れた木のおもちゃや遊具、クラフトなどを一同に集めることによって、木に対する関心を呼び覚ます契機とするとともに、日本の伝統工芸技術、新しい加工技術に対する認識を深めてもらう。

2) 実際に目で見、手で触れ、体で遊ぶことによって、木の持つぬくもりや柔らかさなど、木の素晴らしさを認識してもらう。

3) 木工工作やレリーフ作りのコンクールを通して、子供たちに作る喜びを知ってもらうとともに、木の性質を学び工作技術の向上に役立てる。

4) 工場廃材や試験終了材を使ったおもちゃ、遊具、クラフトなどを通して、物を大事に無駄なく使うことの大切さを学ぶ。

などの認識を深め、ひいては森林の地球環境保護に対する役割と、そこから生み出される木材が生活環境に無くてはならぬ資材であることを正しく理解するための契機にしてもらうことにあります。

イベントの全体概要

- ・主催 北海道立林産試験場，北海道林産技術普及協会
 - ・期間 平成5年7月25日（日）～8月29日（日）
 - ・後援 北海道教育委員会，旭川市，旭川営林支局，北海道木質材料需要拡大協議会，北海道木材青壮年連合会，旭川木のもの組合，旭川工芸デザイン協会，旭川民芸品振興連合会，各報道機関
 - ・協賛 日本航空（株）旭川営業支店，（株）日本エアシステム旭川営業支店，北海道旅客鉄道（株），ニュー北海ホテル，旭川パレスホテル，関係団体・企業
- 目的は先に述べたとおりですが，このイベントの構成内容は
- ・一匠の技・北海道一木のくらふと&おもちゃ展
 - ・ウッドサマーフェスティバル—親と子・木の夢ランド
 - ・北海道子ども木工工作・レリーフコンクール
 - ・伊藤英二の遊びの世界
- となっています。

一匠の技・北海道一木のくらふと&おもちゃ展
—昨年は各都道府県から一県の漏れもなく，日本のおもちゃや遊具類が集まりましたが，昨年は北海道に焦点を当て，14支庁管内から小木工玩具から民芸玩具，小木工クラフト，民芸クラフトといわれるものまで，幅広いおもちゃやクラフト類が集まり，木と暮らしの情報館1階に展示しまし



おもちゃ・クラフト展示会場

た。出展者は高名なクラフト・おもちゃ作家から企業，福祉施設，団体に至るまで，38社，出展数は約500点に達しました。

即売できるものも数多くあったため，生活必需品として，あるいは置き物，飾り物，おみやげなどとして買い求める人も多く，供給が追いつかないものまで出る人気でした。

第1回子ども木工工作・レリーフコンクール

小中学校の授業の中で木を扱うことが少なくなり，また，プラモデルなどのようなプラスチック遊具がはびこり，日常の遊びの中で木を扱い，木の遊び道具を作ることがほとんど無くなった現在，子供たちが自然に木の性質を体得する機会が無くなったと言っても過言ではありません。このため，昨年から初めての試みとして，木工工作やレリーフ作りを通して，子供たちの木の持つぬくもり，木の良さに対する理解を深め，創作意欲や製作技術の向上を図ることを主目的に，コンクールを始めました。

コンクールは次のような要領で行いました。

- ・応募資格 北海道に在住する小・中学生で，学校を通じて，個人で応募する。
- ・応募作品 木工工作は木材および林産物を主材とし，木地を生かして利用・加工した作品で，一辺が80cmを超えないもの。レリーフはあらかじめ当方から送付するカラードグルー彫刻板（15×11×1.2cm）を用いて，題材自由で創作されたもの。
- ・応募部門
木工工作部門 小学生の部，中学生の部
レリーフ部門 小学生の部，中学生の部
- ・審査委員
木工塾といこうぼう主宰 伊藤英二
北海道立林産試験場長 末永智康
北海道立旭川美術館長 高橋 洋
(株)北海道林産技術普及協会長 竹内久彌
北海道東海大学教授 三上 純
- ・審査日 平成5年7月23日（金）
- ・表彰式 平成5年8月8日（日）

応募期間が短かったにもかかわらず、支庁、教育委員会、教諭などの協力を得て、

・応募総数 34校、259点

木工工作部門 23校、164点

小学生の部 9校、54点

中学生の部 14校、110点

レリーフ部門 11校、95点

小学生の部 4校、20点

中学生の部 7校、75点

のように、多数の応募が得られました。

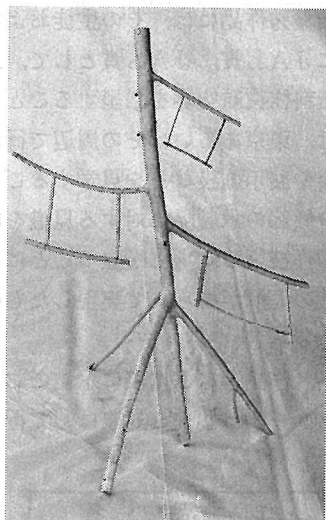
このコンクールは多数の企業、団体の協力を得て行われ、入賞者に授与される賞状に協賛者名を

明記することいたしました。また、木工工作、レリーフ部門の最優秀作品には、その生徒および指導教諭各1名にJAL賞、JAS賞として、北海道―東京間の無料往復航空券を贈呈することになりました。これは、東京あるいはその周辺で行われる優れた展示会や展示施設などを見学することによって、生徒や教師の木製品に対する見識を広め、創作意欲、製作技術の向上に役立つことにJAL、JAS両社の理解が得られて実現したものです。

入賞者、学校名、作品名などは表に示すとおりです。なお、コンクールは個人を対象に行い

表 コンクール入賞者

		賞	名 前	学 校 名	学年	作 品 名
木工 工作 部門	小 学 校	ドリーム賞	山本 美佳	月形町立札比内小学校	3年	夢の国ブランコ
		イメージ賞	石森 陽子	月形町立札比内小学校	4年	えりまきとかげ
		ダイナミック賞	山崎 拓也	月形町立札比内小学校	3年	しか
		チャーム賞	芦野つぐみ	月形町立札比内小学校	3年	おどる「しか」
		グリーン賞	上葛 淳	月形町立札比内小学校	3年	木
	中 学 校	木工名人賞	松井 敦靖	札幌市立稲穂中学校	3年	子供用ソリ
		木工達人賞	小野 理恵	札幌市立稲穂中学校	2年	木琴
		木工達人賞	竹田 智暁	札幌市立稲穂中学校	3年	椅子
		木工芸術賞	加藤 裕美	恵庭市立恵み野中学校	3年	小物入れ
		木工芸術賞	野呂田進介	恵庭市立恵み野中学校	3年	椅子
レ リ ー フ 部 門	小 学 校	レリーフ金賞	榎山あすな	旭川市立江丹別小学校	5年	フランス菊
		レリーフ銀賞	寺崎 能長	旭川市立千代ヶ岡小学校	6年	穴のあいた魚
		レリーフ銀賞	荒川 和代	旭川市立江丹別小学校	5年	つばき
		レリーフ銅賞	表 万梨子	旭川市立西神楽小学校	5年	ヒトデ
		レリーフ銅賞	杉本 千鶴	旭川市立千代ヶ岡小学校	6年	ピースをするさる
	中 学 校	レリーフ銅賞	向平ちあき	旭川市立西神楽小学校	5年	ワイングラス
		レリーフ金賞	鹿島 喜雄	旭川市立神楽中学校	3年	はばたき
		レリーフ銀賞	竹田 千春	旭川市立神楽中学校	3年	うさぎ
		レリーフ銀賞	中島 桂太	旭川市立永山南中学校	1年	エサをねらう鳥
		レリーフ銅賞	山崎 久生	旭川市立神楽中学校	3年	アンモナイト
団 体 部 門	レリーフ銅賞	田辺 集子	旭川市立永山南中学校	2年	親子	
	レリーフ銅賞	遠藤 雅也	旭川市立神居東中学校	3年	シマフクロウ	
	木工団体特別賞		置戸町立勝山小学校	4年	人間と動物が共存する夢の街	
	木工団体特別賞		置戸町立勝山小学校	5年	宇宙探険基地	
	木工団体特別賞		置戸町立境野小学校	6年	ブルドーザー	
特 別 賞	JAS賞	生 徒 指導教師	鹿島喜雄 旭川市立神楽中学校 3年 伊東義晃 旭川市立神楽中学校教諭			
	JAL賞	生 徒 指導教師	松井敦靖 札幌市立稲穂中学校 3年 島田俊彦 札幌市立稲穂中学校教諭			



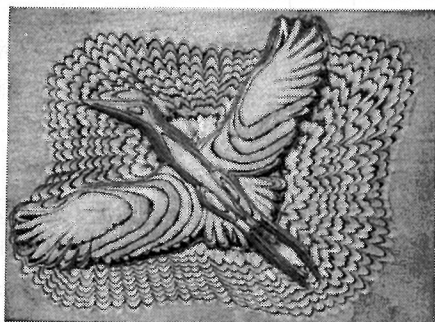
ドリーム賞 夢の国のブランコ
(山本美佳 月形町立札比内小学校3年)



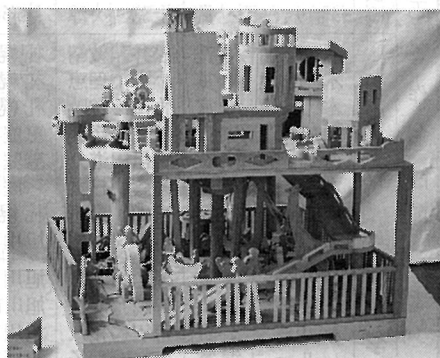
木工名人賞 子供用ソリ
(松井敦靖 札幌市立稲穂中学校3年)



レリーフ金賞 フランス菊
(檀山あすな 旭川市立江丹別小学校5年)



レリーフ金賞 はばたき
(鹿島喜雄 旭川市立神楽中学校3年)



団体特別賞 人間と動物が共存する夢の街
(置戸町立勝山小学校4年)



表彰を待つ入賞者



表彰式

ましたが、団体でも数点の応募があり、これらの作品はすべて大変素晴らしいものばかりでしたので、審査委員会で特別賞を授与することにし、次回からは団体の部を設けることにしました。

なお、審査員から、作品の全体的な特徴、来年に対する期待など、次のような感想が寄せられました。

1) 今の子どもは創造性に欠けるとか不器用だといわれるが、今回の作品を見た限りでは、その言葉は当てはまらない。デザイン的に大変優れたもの、子どもらしいアイデアなどが見られた。また、ほぞ組み、調音、曲げ木など高度な技術を用いた完成度の高い作品で、実用性にも富んでいた。これらの作品には指導された先生の力量もさることながら、何よりも作品に対する製作者（生徒）の心意気（意欲）が感じられた。

2) 小枝、木片、丸太などを素材に、夢のある作品が印象に残った。それぞれの素材の持つ特性を生かした発想の素晴らしさに感心させられた。子どもたちの周りには、まだまだたくさんの素材があるので、もう一度見つめ直してほしい。

3) 市販のキットものもたくさん出品されていたが、木工工作コンクールに出す以上は、それらのものを思い切ってアレンジする独創的なものが欲しかった。その他、塗装の仕上げが気になった。シーラー、クリア塗料など容易に入手できるので、塗装の技術の向上が望まれる。

「ウッドサマーフェスティバル」親と子・木の夢ランド

イベントの期間中、8月7日（土）、8日（日）の2日間、メイン・イベントとしてウッドサマーフェスティバルを行いました。その内容は

- ・コンクール表彰式（8月8日）
 - ・木工教室
 - ・木っば市
 - ・地場産農産物の即売
 - ・林産試験場一般公開
- などです。

新聞やテレビの報道もあり、旭川夏祭りと同重

りましたが、2日間で約2万人の人出で賑わいました。

木工教室では、巣箱と竹馬作りをしましたが、両日とも50組の親子が一緒になって汗を流し、ともすれば失われがちな親子の絆を深める絶好の機会ともなっていました。

木っば市では、民間企業の工場廃材、林産試験場の試験廃材やベニア用丸太のむき心、カラマツのどんころなどに群がり、試験場の職員の指導を受けながら、思い思いの木製品の製作に取り組んでいる姿も見られました。

林産試験場の一般公開にも大勢の人が訪れ、旭川に世界に誇る試験研究機関があることに驚き、また油の吸着実験、カビや鉄汚染の除去実験などにも興味を寄せていました。

また、コンクールの表彰式には、札幌や置戸などからも生徒や教師、父兄など、大勢の人が集まり、場長、協会長から一人ひとりに賞状と賞品が



親子木工教室



木っば市

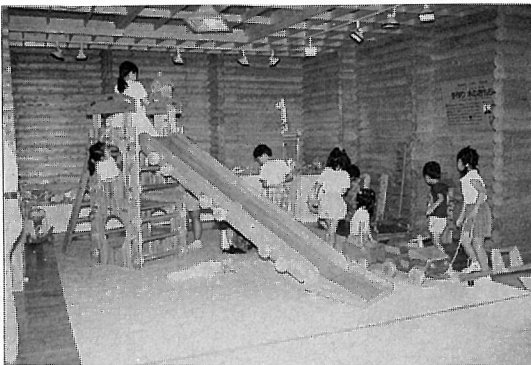
手渡されました。特に、特別賞として、東京までの航空券がJAL、JASの支店長から、生徒と先生に手渡されたときには、ため息と一段と大きな拍手に包まれました。

伊藤英二の遊びの世界

ログハウス「木路歩来」の中には、留辺蘂町のおもちゃ作家伊藤英二さんのおもちゃ、遊具のみを集めました。伊藤先生は以前特殊学級の教師をしていた時から、木のおもちゃ作りに関心を持ち始め、以来15年になります。製作した木のおもちゃや遊具の数は5,000点にもなるそうです。その中から、乗用車、トラック、クレーン車、汽車、飛行機などの乗り物類、木馬やキリンなどの動物類、パズルなどの小型のおもちゃ類、そして実際に子供たちが遊ぶことのできるすべり台、ままごとハウス、木の砂場などの大型遊具類など、合計約100点を展示しました。



木の砂場



すべり台

このコーナーは連日親子連れで賑わいを見せていましたが、子供そのだけでパズルに熱中する大人や、樹種や大きさの異なる丸い木の玉の入った木の砂場の中で喜々として遊ぶ子どもの姿に接し、忘れかけていた木のぬくもりや柔らかさを自然に身につけてもらうだけでなく、親子のふれあいの場になることも実感させられました。この種の催しが毎年継続されることや、さらに常設の大規模な展示施設が多くの街に生まれることを念願せずにはられませんでした。

ままごとハウスは、林産試験場で集成材の曲げ強度試験を行った後の廃材から、伊藤先生がまだ使える部分を切り出して作ったものです。また、小型のおもちゃ類もほとんどが工場廃材を集めて作ったもので、子供たちに物を大事に使うことの大切さ、素晴らしさを教える格好の場になっていたことも事実です。

おわりに

昨年、一昨年とそれぞれ約1か月間のログランで行ったこのイベントは、連日おじいちゃん、おばあちゃんやお父さん、お母さんと連れ立った子供が大勢押し寄せ、各年とも期間中に約3万人の人出で賑わいました。このとき、情報館に展示している床や壁、窓やドアに触れて、「木の製品は素晴らしいですね」と多くの大人が感嘆の声をあげていました。

このように、木のおもちゃやクラフトそのものは、木材の需要拡大に大きな貢献を果たすわけではありませんが、木に対する関心を高め、木製品の素晴らしさを認識してもらう絶好の機会になることは確かです。

また、木のおもちゃ、遊具やクラフトは実際に手で触れ体で遊ぶことによって、現代社会から失われつつある何かを私たちの心に語りかけてくれる気がしてなりません。

イベント最終日の5時過、ログハウスで後片付けをしているとき、若いお母さんが子ども連れで現れ、「今度はいつ行うのですか」との問いに、「来年の夏にまた行いますよ」と答えると、「来

年ですかー!」と大変残念そうにしていたのが強く印象に残っています。

これらのことから、この催しが、木のおもちゃや遊具類の遊びのメッカ、子供たちの木工工作コンクールのメッカとなるようさらに工夫を重ね、継続していきたいと考えています。

なお、この催しを開催するに当たり、多くの企

業、団体から協賛をいただきました。記して厚くお礼申し上げます。

今年も7月24日(日)から8月28日(日)まで、昨年同様「木のグランドフェア」を行います。盛りだくさんの企画で、皆様のお越しをお待ちしています!／

協賛企業・団体名 (50音順)

- ・(株)旭川しんきん産業情報センター
- ・旭川地方間伐材事業協同組合
- ・旭川地方原木市協同組合
- ・旭川地方広葉樹協同組合
- ・旭川地方素材生産事業協同組合
- ・旭川地方木材協会
- ・旭川パレスホテル
- ・旭川ヤクルト株式会社
- ・旭川林産協同組合
- ・アサヒ動熱株式会社
- ・麻生木材株式会社
- ・(有)伊勢工業所
- ・伊藤組木材株式会社
- ・(株)岩間木材店
- ・植平印刷株式会社
- ・蝦名林業株式会社
- ・(株)表鉄工所
- ・オージー(株)札幌支店
- ・王子木材株式会社
- ・大鹿振興(株)札幌支店
- ・加賀谷木材株式会社
- ・梶田建設株式会社
- ・上川支庁管内林産振興会
- ・上川林産工業株式会社
- ・(株)ケイセイ
- ・北日本木材株式会社
- ・近藤木材株式会社
- ・斎藤木材株式会社
- ・(株)サトウ
- ・三箇産業株式会社
- ・サンポット(株)旭川営業所
- ・サンモク工業株式会社
- ・札幌ベニア(株)コイトイ工場
- ・(株)ザイエンス札幌支店
- ・下川町森林組合
- ・昭和木材株式会社
- ・(株)新柴設備
- ・(株)新宮商行札幌支店
- ・太陽工業有限公司
- ・高尾コンクリート株式会社
- ・竹内木材工業合資会社
- ・(株)只石組
- ・東信印刷株式会社
- ・当麻町森林組合
- ・当麻木材工業株式会社
- ・(株)中原建築設計事務所
- ・(株)ニッタクス
- ・(株)日本エアシステム旭川営業支店
- ・日本航空(株)旭川営業支店
- ・日本製紙株式会社
- ・日本木材工業株式会社
- ・ニュー北海ホテル
- ・野村木建工業株式会社
- ・(株)フィール
- ・(株)檜山鉄工所
- ・(株)広田木材店
- ・福島建設工業株式会社
- ・北海道合板工業組合
- ・北海道森林組合連合会
- ・北海道拓殖銀行旭川支店
- ・北海道電力(株)旭川支店
- ・北海道旅客鉄道株式会社
- ・北海道林産物検査会
- ・松原産業株式会社
- ・丸玉産業株式会社
- ・丸善木材株式会社
- ・三井物産林業株式会社
- ・(有)ヨシザワ
- ・米沢建設株式会社
- ・和田木材株式会社